喜多流 自主公演

令和三年 六月

小中村邦生
玉粟谷能夫
阿内田成信
漕葛督

令和３年　6月27日（日）

12:00 開演（11:00 開場）

十四世喜多六平太記念能楽堂

前売開始：令和３年 4月1日（木）午前10時～

料金：全席指定（税込）

S席 9,000円　A席 8,000円　B席 7,000円

C席（１階桟敷席）6,500円　D席（２階席）6,500円

学生席（２階席）2,500円（25歳以下、要学生証提示）

・午前11時15分より、本舞台にて当日の演目の解説をいたします。お気軽にご参加ください。

・当日券をご用意できる場合は午前10時45分より発売いたします。

・ご自身の身近に新型コロナウイルス感染症に感染した方、またはその可能性のある方がいらっしゃるお客様、入管法に基づく入国制限の対象となっている地域から日本への入国後14日間経過していないお客様のご来場はお断りいたします。

・会場入り口前で手指の消毒、検温を実施させていただきます。体温が37.5℃以上の方、あるいは体調の悪い方のご入場はお断りさせていただくことがございます。

主催：公益財団法人十四世六平太記念財団

協力：一般社団法人喜多流職分会

後援：品川区、品川区教育委員会

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術創造活動活性化事業）
独立行政法人日本芸術文化振興会

チケット予約購入のご案内

インターネット

喜多能楽堂ホームページ　http://kita-noh.com/
（24時間対応、要登録・無料）

【お受取り・お支払い】

① セブンイレブン

ご予約の際画面に表示された番号をレジにご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。ご予約の際クレジットカードで先にお支払いを済ませていただくことも可能です。

② 喜多能楽堂事務局 窓口

クレジットカードでお支払いの上（ホームページでのweb決済）、ご予約の際に画面に表示された番号を窓口にご提示いただき、チケットをお受取りください。現金でのお支払いはできません。

電話予約

喜多能楽堂事務局　TEL 03-3491-8813
（午前10:00～午後6:00 休館日あり）

【お受取り・お支払い】

① セブンイレブン

ご予約の際お伝えする番号をレジにご提示の上、チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。

② 郵送

チケット代金と手数料を指定の銀行口座にお振込みください。入金確認後、簡易書留にてチケットをお届けいたします。

③ 喜多能楽堂事務局 窓口

ご予約の際お伝えした番号を窓口にご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金のみとなります。

窓口

喜多能楽堂事務局　TEL 03-3491-8813
（午前10:00～午後6:00 休館日あり）

【お受取り・お支払い】

お支払いは現金のみとなります。

※お受取り・お支払い方法によって別途手数料がかかります。
ご予約の際ご案内いたします。
※ご予約いただいたチケットのキャンセル、変更はできません。

ご注意

・開演中の途中入場はお断りいたします。　・未就学児童のご入場はご遠慮ください。
・やむを得ない事情により出演者が変更になる場合がございます。
・許可なき写真・ビデオ撮影、及び録音はお断りいたします。
・客席での携帯電話やスマートフォンなど音や光の出る電子機器のご利用はお断りいたします。
・当面のあいだ水分補給を除き、飲食はご遠慮くださいますようお願いいたします。
・喜多能楽堂は全館禁煙です。屋外喫煙所をご利用ください。
・お席を離れる場合は貴重品、お手回り品にご注意ください。盗難・紛失についての責任は負いかねます。
・係員の指示に従っていただけない際には退場していただく場合がございます。

当能楽堂は、政府、公益社団法人全国公立文化施設協会などのガイドラインに基づき、感染拡大防止のための対策ガイドラインを定めています。なお、本ガイドラインの内容は、新型コロナウイルス感染の地域における動向や専門家の意見などを踏まえ、必要に応じて適宜改訂を行うものとさせていただきますので、ご来場の前には当能楽堂 HP にてご確認ください。お客様におかれましても、ご自身の感染予防とともに周りのお客様にご配慮いただけますよう、何卒ご協力のほどお願い申し上げます。

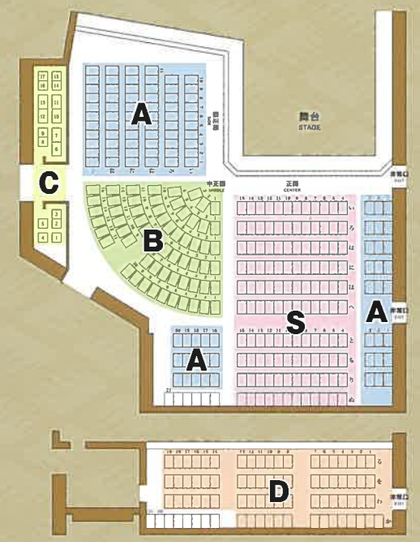
新型コロナウイルス感染対策ガイドライン
http://kita-noh.com/covid-19-guidelines/

喜多流自主公演年間優待券

5枚綴り　35,000円

・ご希望のどの席種でもお選びいただけるお得な年間優待券です。
・お求めは喜多能楽堂事務局まで。各喜多流職分でも承ります。
・ご観能の際は別途、座席指定券をご予約ください。
　・追加料金はかかりません。
　・ご予約は、インターネット、電話、窓口で承ります。
　・年間優待券のみでの観能はできません。
　・ご入場の際は、年間優待券と座席指定券をご提示いただきます。
・本年度は延期になった前年度の振替公演です。
　ご利用は前年度（令和２年度）喜多流自主公演年間優待券をご利用ください。尚、前年度の予約済の指定席も有効です。
・青年能には使用できません。

自主公演観客席御案内



S席	9,000円	C席（１階桟敷席）	6,500円
A席	8,000円	D席（２階席）	6,500円
B席	7,000円	学生席（２階席）	2,500円

会場案内図

JR線・東急目黒線・都営三田線・東京メトロ南北線ともに目黒駅より徒歩７分。
目黒駅西口よりドレメ通りを直進。杉野学園体育館手前を左に入る。
※当能楽堂は駐車場施設がございませんので、お車でのご来場はご遠慮願います。

十四世喜多六平太記念能楽堂

〒141-0021 東京都品川区上大崎4-6-9
TEL: 03-3491-8813　FAX: 03-3491-8999
喜多能楽堂ホームページ　http://kita-noh.com/

六月 自主公演番組

能

小督

シテ連・供女 友枝雄太郎
シテ連・小督 狩野祐一
後シテ・前同人 前シテ・源仲国 中村邦生
ワキ・勅使 工藤和哉
アイ・嵯峨の里人 山本則孝
後見 香川靖嗣 内田安信
大鼓 佃良勝 小鼓 飯冨孔明 笛 藤田貴寛
地謡 金子龍晟 佐藤陽 友枝真也 高林昌司 高林呻二 狩野了一 大村定 友枝雄人

狂言

寝音曲

シテ・太郎冠者 山本則俊
アド・主 山本則重

休憩（二十分）

能

玉葛

後シテ・玉葛の霊 前シテ・里女 粟谷能夫
ワキ・旅僧 宝生欣哉
アイ・初瀬寺門前の者 山本凜太郎
後見 友枝昭世 松井彬
大鼓 國川純 小鼓 森澤勇司 笛 中谷明
地謡 高林昌司 佐藤陽 塩津圭介 友枝雄太郎 佐々木多門 長島茂 粟谷明生 粟谷充雄

休憩（十分）

仕舞

敦盛

佐藤寛泰
地謡 塩津圭介 金子敬一郎 大島政允 大島輝久

能

阿漕

後シテ・阿漕の霊 前シテ・漁翁 内田成信
ワキ・旅人 則久英志
ワキ連・供人 御厨誠吾
ワキ連・供人 小林克都
アイ・阿漕の浦人 山本則秀
後見 塩津哲生 谷大作
大鼓 大倉慶乃助 小鼓 住駒充彦 太鼓 梶谷英樹 笛 槻宅聡
地謡 友枝雄太郎 谷友矩 佐藤寛泰 狩野祐一 粟谷浩之 金子敬一郎 出雲康雅 大島輝久

附祝言

終了予定時刻 四時五十分頃

小督（こごう）

高倉天皇の寵愛を受けた小督の局は、中宮が取りなして御所に上ぼらせた琴の上手だった。しかし小督が天皇の寵愛を受けていることを平清盛が怒っていると知り、畏れて宮中を去る。帝は小督の失踪を嘆くが嵯峨野にいるとの噂を聞き、笛の名手として御所で小督の琴と合奏したことがある源仲国に小督を訪ねるように命じる。折しも今夜は八月十五夜名月なので、小督が琴を弾く音を頼りに嵯峨野へ向かう。〈中入〉「牡鹿鳴くこの山里」と詠まれた秋の嵯峨野は月光が澄み渡り、その中を仲国は天皇より下賜された馬で駆け巡る。法輪寺付近に差し掛かるとの片折戸の小邸から、夫を想って恋う曲である「想夫恋」の琴の音が聞こえてきた。聞き覚えのある琴の音に面会を乞う仲国。小督は宣旨だと聞いて最初は会おうとしないが侍女に諌められ目通りを許す。仲国は小督に帝の御心を伝え、返事を受け取る。そして仲国は名残の宴で舞を舞い、やがて都へ帰っていった。

（約八十分）

寝音曲（ねおんぎょく）

太郎冠者の謡を聞きたい主人は、何かともったいをつける太郎冠者に酒をふるまい、自ら膝枕をも許して謡わせる。謡の調子にのった太郎冠者は主人に身体を起こされてもなお謡いつづけ、ついには立ち上がって舞い始める。

（約二十分）

玉葛（たまかずら）

旅の僧が奈良の長谷観音へ参詣に行こうと初瀬に赴くと、川を舟を漕いで詣でる女がいる。僧は女とともに長谷寺に参り、女は有名な二本杉（ふたもとのすぎ）へ案内する。女はこの杉にゆかりのある玉葛の話を聞かせる。玉葛の母・夕顔は源氏との逢瀬の時亡くなり、残された幼い玉葛は九州に下り、乳母に育てられる。しかし玉葛は田舎住まいに嫌気がさし、九州を後にしてこの二本杉のある初瀬に詣でに来た。そこで母・夕顔の侍女であった右近に出会い、光源氏に引き取られたと語る。やがて自分がその玉葛の霊だとほのめかし、弔いを頼んで消え失せる。〈中入〉僧が哀れに思い弔いをすると、執心により姿が乱れた玉葛の霊が現れる。そして沢山の求愛や恋の迷いのせいか、死後の今も妄執の苦しみから抜け出せないと打ち明け、やがて昔のことを懺悔し成仏する。

（約八十分）

阿漕（あこぎ）

秋風の中、日向国から伊勢神宮の参拝にきた旅人が、阿漕が浦へとたどり着く。そこに通りかかった漁翁と言葉を交わし、土地に縁のある古歌などについて語り合う。漁翁は、この阿漕が浦は伊勢神宮に供える魚を獲るための禁域であったが、ある男が毎晩隠れて網を下ろしていたのが露見し殺されてしまった話をする。やがて自分こそがその男であると明かすと急にあたりが暗くなりもの凄まじい様子となる。漁翁は弔って欲しいと恐ろしい叫びを残して闇の中に消え失せた。〈中入〉旅人が弔いをすると、やつれ果てた姿の漁師の亡霊が現われ、執心かられるまま網を操って魚を獲る様を見せ、地獄の苦しみを受ける有様を語り、旅人に助けを頼みつつ再び海の底に消え失せるのだった。

（約八十分）

令和三年 九月 自主公演番組予告

令和三年 九月二十六日（日）正午始
十四世喜多六平太記念能楽堂
前売開始 七月一日（木）午前十時～

通小町 友枝雄人
半蔀 谷大作
鵜飼 粟谷明生